



6月13日(土) 南部地区コミセン合同企画事業「立久恵峡を歩こう!交流ウォーキング」が開催され、71名の参加者が、約5kmの立久恵峡周回コースの絶景を堪能しました。
(雄大な景色のためウォーキングの様子は次ページに掲載しています)

ふるさと朝山で見られる動植物シリーズ②

ニホンサル



私たちが暮らしている朝山地区でも、ついに10頭を超えるニホンサルの群れが出現しました。私は4月22日に、わが家の裏山で小さな子供を連れて比較的大きな集団を確認しました。これまでは1頭だけの離れサルがときどき確認されていましたが、ついに朝山地区内でも集団が出現したことになり、初めてのことで。近所の畑では、タマネギが引き抜かれてかじられたり、シャガイモの種イモが掘り起こされ食べられるなどの被害も出ています。サルによる被害は、単独個体と10頭を超す集団とは大きな違いがあり、非常に困った状況といえます。

ニホンサルの島根県内における近年の生息状況は、個体数と分布域が急拡大してきており、2024年の生息数は約3,600頭といわれています。この数値は、17年前と比較すると2倍以上に増加していることになり、今後の動向が非常に気になります。

最近では、塩冶町の人通りのある住宅地の道路わきで、学校帰りの女子中学生が1頭の若いサルに取りつかれ困っていたところを助けてあげたこともありました。このように、住宅地などへの出没により、人が襲われる被害も発生するようになってきています。

サルに対しては、餌などを絶対に与えないことや、生ごみの放置、収穫しない果実を放置しないことなどが対策として重要です。また、目を合わせないことや、刺激をしないことなどが市の広報等で呼びかけられていますので、お互いに気をつけましょう。

馬木町 佐藤仁志

クマ・サル
目撃したら

クマやサルを目撃されたら、
出雲市森林政策課(☎21-6279)または
朝山コミセン(☎48-0201)に連絡してください

《知りたい情報》
場所、時間、頭数、大きさなど

朝山地区の動き・お知らせ

4月27日(月) 幼稚園たけのこ掘り
大きなタケノコ 採れました!



コーヒー豆は
「朝ト鼻」

にっこり
カフェ
始めました!!

一杯
100円

「希望の方は
スタッフに
お声がけ下さい」

朝山地区防災研修会(6月21日) 朝山地区防災対策本部主催

平成18年7月豪雨から
20年、令和3年7月豪雨から5年が経過し、当時を振り返りながら「防災」について考えるとともに、その後完成した「志津見ダム」の洪水調節機能について学びました。

志津見ダムの調節能力(最大流入量 歴代順位)

順位	年	月日	要因	最大流入量 (t/s)	最大放出量 (t/s)
1	R3	7/12	前線	492.40	316.30
2	R3	8/14	前線	200.06	174.91
3	R2	7/13	前線	156.36	126.11
4	H24	7/6	前線	146.68	54.21
5	H28	7/3	前線	131.79	62.93



警戒レベル	避難行動等
5 緊急安全確保	命が危険です 直ちに身の安全を確保しましょう
警戒レベル4までに必ず避難	
4 避難指示	災害が発生する危険が高まっています 速やかに危険な場所から避難しましょう
3 高齢者避難	高齢者・障がい者等は避難しましょう その他の人は、避難の準備をしましょう
2	避難場所・避難ルート・避難のタイミング・ 非常持出品を確認しましょう

オープンチャット
「朝山地区防災情報」

令和3年7月豪雨の際には、倒木や土砂崩れ等により、あちらこちらで通行止めが発生しました。しかし、情報の伝達ができず、避難行動にも影響が出ました。

そこで、朝山地区災害対策本部では、オープンチャット「朝山地区防災情報」を開設しました。

LINE(ライン)をお使いの方は、オープンチャットにご参加下さい。

早急な情報共有が必要な場合には、現地の写真の掲載など情報提供をお願いします。

二次元コード

世帯数と人口

2026年5月末現在(昨年同期数)
世帯数 596戸(602戸)
人口(男) 702人(713人)
人口(女) 823人(836人)
計 1,525人(1,549人)

朝山地区の健康づくり目標

- ①人との交流を積極的に心がけましょう
- ②運動習慣のきっかけづくりや情報提供をしましょう
- ③塩分、糖分の取りすぎに注意しましょう

朝山地区健康づくり委員会 徳永真由美、奥井敏枝、石倉早希



朝山コミュニティセンター自主企画事業

立久恵峠を歩こう! 交流ウォーキング(南部6コミセン事業)



5月13日(水) 米づくり体験(田植)(ふれあい支援部)

みなみ小学校の5年生(9名)と朝山幼稚園の園児(6名)が、米づくりに挑戦しています。
5年生は、「ばば曳き」にも挑戦しました。



5月24日(日) 文化講演会(文化部)

第1部「ゼロから楽しむ出雲大社の神話と歴史」
朝山神社宮司 松尾充晶さん

第2部「出雲弁ソングライブ」
ユメノカタチ AKIRA さん



ふるさと再発見 シリーズ ⑦

四面山 勝定寺(しめんざん しょうじょうじ)

宗派:臨済宗妙心寺派 本尊:宝冠釈迦如来

当山は、天正5年(1577年)、領主古志重信(十蔵城主)が当地を霊区として正菊比丘に与えたことに始まる。比丘は大いに土工を起こし、四面山勝定寺と号して開山初祖となり、二代大輪和尚の時に伽藍が完成した。時代が下り、享保の初めに荒廃したものの、七代湘南和尚が中興した。

明治になり、十三代革堂和尚の時に、境内を拡張整備して現在の本堂及び庫裏の原型が整えられた。その後も今日に至るまで、歴代の住職により建立・再建が進められ、境内には山門・鐘楼のほか、観音堂・地藏堂・鎮守堂・毘沙門堂の四堂がある。

また、革堂和尚は庭園の築造にも意を注ぎ、前庭にはツツジを移植して古松を配し、後庭には「心字の池」「枯山水」を中心とする禅宗庭園を築いた。

後庭は回遊式となっており、散策しながら庭園

を巡ることができる。杉木立や竹林を背景に広がる幽玄で静かな空間は、心を落ち着かせてくれる。また、杉木立の中の東屋からは庭園全体を一望することができる。

境内全域に配植された数百株のツツジにより古くから「つつじ寺」として多くの人々に親しまれている。ツツジのほかにも、春は桜やシャクナゲ、夏はスイレンやサルスベリ、秋は紅葉、冬は雪景色と、一年を通じて四季折々の表情を見せてくれる。

勝定寺住職 倉橋弘基

ツツジ:4月中旬~4月下旬
スイレン:6月上旬~9月下旬
紅葉:11月下旬~12月上旬

